

医療者のための臨床倫理学 —いろいろな方法でケースを考える

講座概要

臨床倫理の特徴は、医療現場で遭遇する悩ましい倫理問題を、目の前のケースの個別の諸事情を汲み取りながら、あくまで具体的に考え解きほぐそうとすることにあります。医療倫理学や生命倫理学は、人工妊娠中絶は許される行為か？などの抽象的な問いに一般論的な答えを出そうとしますが、一方、臨床倫理学はケースに始まり、ケースに終わります。一般論で扱えないために学問になり難く、教育課程や生涯教育で正面から取り上げられることはあまりありませんでした。本講座では、臨床倫理の方法論について基礎の基礎からお話しします。

実施責任者：医学系研究科教授 服部 健司

□講義日程

日 程		講 義 内 容	講 師
第1回	7月13日(火) 19:00 ~ 21:00	【臨床倫理の方法論 総論】 「米国型とEU型では臨床倫理はどう違う？MCDとはどんな方法？臨床倫理と四原則との関係は？四分割表はなぜ使いものにならない？ケーススタディをうまくやるコツは？」などについてやさしくお話しします。	医学系研究科・教授 服部健司
第2回	7月27日(火) 19:00 ~ 21:00	【臨床倫理の方法論 各論】 MCDとはどのようなものか。アメリカ型の臨床倫理とどうちがうのか。MCDの中でも主流といえるジレンマ・メソッド、ナイメーヘン・メソッド、解釈学的アプローチの解説と、これらを使ったケーススタディを行います。	